

# 森口奈良吉と「吉野離宮」(その一)

▼国柄びとの舞  
歌人で民俗学にも通じた前

登志夫は、吉野郡下市の人だが、吉野離宮について、次の

ように記している。

「上代政治の根本は稻作の発展であった。稻作の第一のものは水であった。丹生信仰が大和平野に確立されない

で、吉野においてなされたこ

とは、きわめて興味深いこと

だ。吉野離宮の存在は、上代宮廷人のたんなる遊山の目的で造られたのではなく、…

みそぎのための聖地であつた」(『吉野紀行』)。

ここで前が、「天皇の離宮

行幸の目的を禊(みそぎ)の聖地を訪なつことにあつた」と見ているのは、前回に触れた森口奈良吉の指摘と重なるところがある。

一方で、吉野は、谷崎潤一郎が記した『吉野葛』や手漉(すきの)きの国柄(くず)紙によつても知られるが、国柄奏(くずそう)が舞われる淨見原神(きよみはら)社もまた忘れるところはない。

舞翁(アキシ)の装束(はなし)は、秋津の野邊に宮柱太敷(きませいば...)」(笠朝臣金村・同)

## 民俗通信

281 西村 博美

九〇七)。

▼雄略天皇の「秋津野」

さて、奈良吉が離宮の地で

あると注目する「秋津野」は、

それは大武天皇であると、前

は先の「紀行」に記してい

る。

歌にも出てくる。

歌の大意は、「倭の峰郡

国柄びとのことは、『日本

雄略天皇(「書紀四年八月

が吉野宮に行幸し、「河上の

小野」というところで獣をし

た折に、自ら詠んだとされる

歌にも出てくる。

この記事によつて河上の小

野は、秋津野と改名されたこ

とがわかる。小牟漏岳(オム

ラガタケ)は、すなわち小(オ

ムラ)に祀られる丹生川上社

の背後の山。秋津野は、後方

ラガタケ)は、すなわち小(オ

ムラ)に祀られる丹生川上社

の背後の山。秋津野は、後方

の高原状の通称千畳敷と称す

る。

この記事によつて河上の小

野は、秋津野と改名されたこ

とがわかる。小牟漏岳(オム

ラガタケ)は、すなわち小(オ

ムラ)に祀られる丹生川上社

の背後の山。秋津野は、後方

の高原状の通称千畳敷と称す

る。

この記事によつて河上の小

野は、秋津野と改名されたこ

とがわかる。小牟漏岳(オム

ラガタケ)は、すなわち小(オ

ムラ)に祀られる丹生川上社

の背後の山。秋津野は、後方

の高原状の通称千畳敷と称す

## 離宮の地は「秋津野」に

# 万葉歌など基に考察



建部神社宮司時代の森口奈良吉(『丹生川上神社と森口奈良吉翁』、1975年より)

る所にあり、その野辺に吉野宮は存する」。しかし、この奈良吉説にも、北島蔵江などによる反論がある。

を強く支持する一人に、保田與重郎がいる。保田は奈良県桜井の人。奈良吉の「地名に瓦る歴史地理の考証」、上代の信仰と政治の上からの推論は殆ど妥当で決定的な説明であった」と、保田は言う(『吉野離宮の濫觴』『風日』一九五七年)。

また、「持統天皇の吉野宮行幸には、通常

終生を、丹生川上と吉野離

宮の研究に送った奈良吉が、

この知らせを聞いたとした

ら、どんなに驚いたことであ

る。

今から一世紀前、奈良吉の

生地、東吉野村で捕獲された

二ホンオオカミの標本もま

た、英國へ渡っている。

にしむら・ひろみ(詩人、奈良民俗文化研究所研究員)

瀧の文字にこだわった語呂合せの説である」(「日本の美術史・吉野宮行幸の意味」『芸術新潮』一九九六年六月)とも述べている。

▼女神像、英國へ。

奈良吉は、記している。

「丹生社の御神体ミズハノ

ト』)と名づけ、残してお

處、即ち河上であるのである

から、宮瀧あたりのほうが

「吉野宮の地で

ある」と注目する「秋津野」は、

ある」と注目する「秋津野」は、

畏いものがあつた。

……この吉野宮を、宮

の神祕の深刻といふよ

り、さらに切々とした

国の信仰と風景とさ

い、遠方の万葉学者が、

に土俗と地理を知らな

い、遠方の万葉学者が、

に土俗と地理を知らな

い、遠方の万葉学者が、

に土俗と地理を知らな